

令和5年度 第3回学校運営協議会 会議録

日時 令和6年3月19日(火) 15:30 ~ 16:45

場所 会議室

出席者 委員：酒井、石渡、小市、新庄(代理)、新倉
職員：校長、副校長、教頭、宮崎、石川、渡辺、岩崎、斎藤、村山

欠席者 委員：志村、中尾、鈴木

- 次第**
- 1 校長より
 - 2 令和5年度 学校評価報告書<実施結果>について
 - 3 令和5年度 県立高校指定校事業実施報告書について
 - 4 令和5年度 横浜立野高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等
 - 5 学校評価部会、地域連携部会、キャリア教育部会 意見交換
 - 6 その他

会議内容

■校長より

○SC、SSWの配置や子どもサポートドックのアンケートは、生徒や保護者、教職員の相談で非常に役に立った。

○今年度の倍率は1.46倍で昨年度より増加した。要因を分析し、来年度に繋げていきたい。

○電話を取る時間を「8:00~17:30」と区切ることで、働き方の改善を検討している。

■令和5年度 学校評価報告書<実施結果>について

<カリキュラムグループ>

- 授業研究協議会及び外部講師による授業力向上研修会を通じて、一人一台端末を使って主体的・対話的な授業実践をどのようにしてより向上させていくことができるか協議をしてきた。
- 外部講師から「指導と評価の一体化」について、本校の全教員を対象に講義をしていただいた。
- 今後は生徒が授業を終えた後に「何ができるようになるのか」をより明確にしていきたい。

<生活保健グループ>

- スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）といった専門家のおかげで対応することができた。
- 今後も SC や SSW に加え、支援学校といった外部とのつながり大切にし、組織的に対策していきたい。また、若手教員の育成にも力を入れていきたい。

<学校管理グループ>

- 実際にグラウンドに避難するような避難訓練を行うことができた。
- 生徒たちが主体的に学習に取り組めるような研修を行う予定だったが、行うことができなかった。

<広報渉外グループ>

- 働き方改革の一環として、以前は土曜日に行っていた PTA 役員会・運営委員会を木曜日に変更した。また、PTA 総会を対面から書面での開催に変更した。
- 本校の強みである「きれいな校舎」「元気な生徒」を実際に見てもらえるよう、学校に来てもらえるよう力を入れてきた。
- コロナ禍以前に行っていた活動を少しずつ復活させていきたい。

<生徒会グループ>

- 生徒たち自身で企画したクラスの日や文化祭といった行事を無事実施することができた。
- あいさつ運動や見守り活動、ソングリーダー部によるダンス指導を間門小学校で行うことができた。
- 今後は、空手道部やバスケットボール部など他の部活でも、他校と連携した活動をしていきたい。また、生徒会執行部が活躍できるような場を増やしていきたい。

<キャリアグループ>

- 昨年に引き続き、一般受験で国公立や難関校に合格する生徒がいたことから、しっかり計画を立てて受験勉強をしていくことで一般受験でも合格できるポテンシャルがあることを在校生に伝え、指導していきたい。
- 保護者への進路説明や、外部から講師を招きお話していただく機会を作ることができた。
- 向上心を持った生徒が志望校に合格できるように鍛えていきたい。

■意見交換

「学校推薦による受験は他の学校でも増えてきている。大学や専門学校でも定員割れを失っている学校もある。どこの学校も受験をさせてしっかりとした基礎学力を身に付けながら進学させたいが難しい。」(委員)

「倍率が1.46倍に増えたのはすごいことだと感じた。倍率が増えたことに関して先生方はどのように考えているのか議論をした方がいい。」(委員)

「倍率が増えた要因としては、今年度の部活動の成果や生徒たちが立野高校の情報をSNSで発信していることが考えられる。」(学校)

「中学校でも、SNSから得た情報や部活の成果をきっかけに立野高校を受けたいと言っている生徒が多かった。」(委員)

「今までの生徒や保護者と、近年の生徒や保護者とは性質が変化してきている。今まででは目立たなかった苦情や抗議が多くなり、長期化するケースが増えた。」(学校)

「小学校や中学校の教育相談に関わるケースが急激の増加している。生徒たちの心の問題だけでなく、保護者のケアもしていく必要がある。そのため、親と子の問題や夫婦の問題などの家庭の問題も学校の中に入ってくるようになる。初動でしっかり対応し、外部に繋げられることであれば繋げていく必要がある。」(学校)

「中学校では、今年はあまり問題が起こらなかった。子どもの声を聞く体制と聞く方法を工夫した。教育相談で、1対1で子どもと話すのはもちろんだが、子どもの声をいろいろな手段で聞き出すようにした。SCやSSWと協力し、何かあればすぐにケース会議を行うようにした。」(委員)

「役所や会社は定時を過ぎていけば電話対応はしないが、学校だけが定時を回っても電話対応をしている。また、会社ではお客様相談係のような聞く専門の人を配置している。これを学校でも置くべき。」(委員)

「ここ2・3年、そしてこれから2・3年はコロナの関係で、人間的な関わりが少ない人が

採用され先生になる。また、そういった先生はすぐにやめてしまう可能性があることを計算しておかなければならない。」(委員)

「悩みを抱える生徒はどここの学校でも年々増加している。そして、若い先生も同時に増加している。若い先生を見ていると、ひとりで抱え込んでしまう傾向があるように感じる。困ったことがあればすぐに周りに相談できるような雰囲気を学校全体で作る、若い先生が潰れないようにする必要がある。」(委員)

「今は人を育てるのが難しい時代だと感じる。」(委員)

「昔はリーダーに従って若手は一生懸命働いて経験を積んでいたが、今はそれがハラスメントになってしまう可能性があり難しい。また、働き方改革により時間に制限があり、自分の仕事で精一杯で他の人の指導のために時間を使えない。そのため、今はチームワークではなく、個々に仕事が振られ個々に仕事をしているように感じる。それが若い先生がひとりで抱え込んでしまう原因になっている気がする。働き方改革で変えていきたいこともあれば、働き方改革により変えられないことがある。大変もどかしい。」(学校)

「どこも同じ状況でその結果、教員受験者が減少し、現場が忙しくなっており、悪循環になってしまっている。」(委員)